

交通対策・都市基盤整備合同部会が開催

中心市街地活性化協議会の専門部会がこのほど開催されました。協議会には「交通対策」、「都市基盤整備」、「商業活性化」の3部会が設置されていますが、今回は、まちづくりの基本項目が相互に関連する交通対策部会と都市基盤整備部会を合同開催として実施したものです。なお、部会長については協議会長の指名で山林一男氏（奈良市市街地開発株式会社専務理事）が双方の部会長に就任いたしました。

〇市街地の新交通システムの考え方について

協議に入る前に、今年度事業として奈良市が実施している「奈良市における都市内交通システム」について湯浅部会員（奈良市都市計画課長）から下記内容について報告を受けました。



1. 目的

奈良市特有の問題として、観光シーズン等においては観光交通による交通渋滞が著しく、市民生活にも大きな影響を及ぼしています。そこで、この問題に対処すると共に、奈良のまちを快適に観光していただくため、新たな方策についての検討及び実現に向けた整備プログラムの策定など「奈良の新しい交通システム」の構築を図り、本市が目指す都市像である「観光文化集客都市づくり」の一環としたい。

2. 検討概要

①市内へのアクセスとトランスポート拠点

- ・誘導ルートの設定
- ・パークアンドバスライドの常設
(大規模駐車場の確保、観光情報提供等)

②主要駅及び大規模駐車場から観光拠点地区までの交通システム

- ・自転車、ペロタクシーの活用
- ・エコバスの導入、バス専用レーン等の設置

③観光拠点地区間の交通システム

- ・自転車、ペロタクシーの活用、歩いて奈良を感じるルートの設定

④観光拠点地区内の「歩いての観光」のためのシステムの策定

- ・歩いての観光を基本とする仕掛け
- ・人力車、自転車などの活用

⑤歩いての観光のための誘導ルートの設定と整備モデルの策定

- ・観光客を迎える心が伝わる市民による路地づくり

3. 検討エリア

- ・奈良公園周辺（ならまち含む）、平城宮跡及び近鉄西大寺駅周辺、西の京周辺を含むエリア

4. 国、県との連携

- ・当該システムの検討にあたっては、国、県と連携し奈良にふさわしい交通システムの構築を図りたいと考えています。

- ・奈良中心市街地交通処理対策検討委員会

計画中の道路整備も考慮したうえで、奈良中心市街地の交通処理のあり方等を検討し、交通処理計画の具体策を策定することを目的とした委員会が平成18年度に設置されています。委員会は、学識経験者、国、県、県警、市、市観光協会で構成され、施策の連携を図っています。

- ・奈良県においては、奈良公園周辺における渋滞対策について検討が進められる予定です。

5. スケジュール

・平成 19 年度

市内へのアクセスルートの設定やトランスポート拠点（大規模駐車場の確保、PR&BR の常設化）並びに各観光拠点地区間、拠点内のシステムなどの市案を策定し、国、県との協議及び調整をおこないながら、交通システム構築の基本的な方策案をまとめます。

・平成 20 年度

19 年度に策定した基本的な方策案をもとに、実施に向けての検証や市民のワークショップによる「歩いての観光」のための誘導ルートの設定、観光客を迎える路地づくりなどのモデル整備案の作成、整備プログラム策定等を行います。

○部会員との意見交換

以上の説明を受けた後、部会員との質疑や意見交換を実施いたしました。その概要については以下のとおりです。なお、多くは委員より意見として提案されましたのでそれらの意見を紹介することとします。

- 車の進入対策を考える前に、公共交通機関利用のキャンペーンを展開するなど、公共交通の利用促進策などの検討が必要でないか。

● 関連して、車の総量をどの程度減らすか、例えば奈良公園内に一定の車しか入れない措置などの抜本的な交通混雑緩和策を講じることが必要でないか。

● 1300 年祭の交通対策を樹立するといっても、記念祭の規模や会場や実施内容が明らかでないから検討のしようがない。

● パーク&ライド方式を採用するとした場合、郊外の駐車場に止める何らかのインセンティブを与えるなどを考えないと実行されない。付加価値が必要。

● 市街地内の域内交通はどのように考えているか。駅→ならまち などへの移動手段確保は大切。ならまちバスなどの復活が欠かせない。

これらは生活者の利便性提供という観点からも必要。

これらの意見については、部会の意見としてとりまとめ市に要望することとしました。

なおこのように今回の部会は、交通システムのみ話題に費やされたため、駐車場・駐輪場問題、コミュニティバスの運行などのほか、都市基盤整備案件の協議が次回に持ち越されることとなりました。

第三回中心市街地活性化協議会報告 最終意見書のとりまとめについて協議

第三回中心市街地活性化協議会が開催されました。審議内容等は右のとおりです。



○ 開催概要

と き：20年2月4日（月）午後3：00～

ところ：奈良商工会議所4F中ホール

出席者：18名（委員数19名）

○ 協議内容

・ 奈良市中心市街地活性化基本計画(案)については、平成19年4月18日に市から活性化協議会に対して意見を求められ、これまで協議会において審議をしてきました。その間、市においては国との事前協議を行い、今回基本計画(案)の内容がまとまったことから、急ぎ協議会を開催いたしました。

- ・ 市から基本計画(案)の修正事項の説明
- ・ 意見交換
- ・ 会長から「概ね妥当である」とした意見書案を提示し、全員一致で承認されました

○ 以上のとおりであります。審議の内容および意見書につきましては、紙面の都合上次号で掲載いたします。

奈良市中心市街地活性化協議会 今後の予定

■ 2月12日

協議会 商業活性化部会の開催

■ 2月25日

奈良市中心市街地活性化フォーラムの開催

お詫びと訂正

「なら賑わい通信」創刊号の“ならまちづくりフォーラム”の記述におきまして、基調講演及びパネルディスカッション・コメンテーターのお名前が間違っておりました。お詫びして訂正いたします。

(誤) 望月輝彦氏 → (正) 望月照彦氏

横ばいに推移する奈良市中心市街地通行量

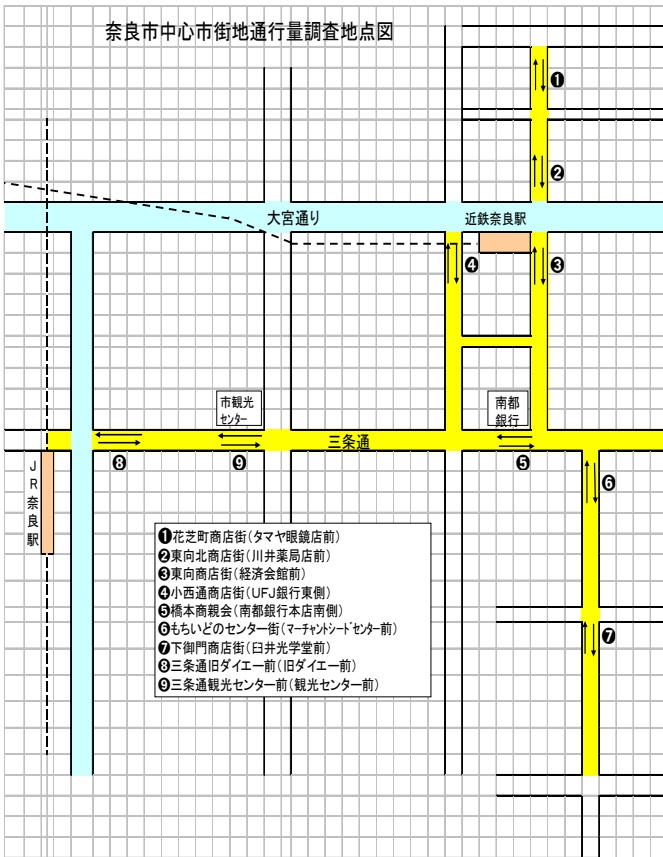
～奈良市中心市街地通行量調査結果報告書より～

奈良市中心市街地活性化協議会では平成 19 年度の市内主要地点の通行量調査を昨年 8 月 5 日（日）に実施しました（午前 10 時～午後 6 時までの 8 時間計測）。

その調査結果は次のとおりですが、詳細なデータなどは活性化協議会にお問い合わせください。

1. 調査地点

下図の市内主要 9 地点



2. 調査結果のまとめ

◆総通行量は、前年（平成 18 年）に比べ 1.9%の増加

市内主要 9 地点の日曜日の通行量は 83,577 人で、前回調査時（平成 18 年）における 82,035 人に比べ、約 1.9% 増加した。この結果、昨年度に記録した過去最低の通行量を若干ながら上回ることであり、やや回復の兆しが見られることとなった。

したがって、平成 14 年度まで過去一貫して減少し続けた奈良市中心部の通行量は、平成 14 年頃から横ばいに推移しており、今回もそれを裏付ける結果となった。

とくに、昨年度はダイエー奈良店の撤退による減少であっ

ただに、1.9%の回復は期待の持てる結果となった（図表 1～3 参照）。

◆中心部の拠点性は変わらないものの、

周縁部に流動が拡大しつつある

市内通行量の最高地点は東向商店街であり、21%の占有率は、過去とほとんど変化はない、また第 2 位の小西通り商店街もやや東向商店街に迫っているもののその傾向は同様である。しかし、この 2 商店街とも昨年より通行量を減少させている。いずれも数値的には微細であるが、やや気がかりな点である。

その反面、周辺地域であるもちいどの、下御門、東向北、花芝などの商店街は、量的には低い数値であるが、軒並み対前年より増加しており、来街者の回遊がやや広範囲に広がっていることが見て取れる。

◆下御門、もちいどのセンター街などの増加が目される

このような外縁部への回遊を証明しているのが、下御門商店街ともちいどのセンター街。対前年比で下御門が 13.5%、もちいどのが 13.7%と全体の 1.9%をはるかに上回る増加を示している。とくにもちいどのセンター街は、昭和 52 年から過去一貫して減少してきただけに、その増加ぶりは注目される。

これらの要因としては、背後に控えるならまちへの新たな動線形成などの要因と思われるが、一方で「夢キューブ」などの革新的な取り組みの成果もあるものと思われる。

◆近鉄奈良駅と JR 奈良駅回遊の条件が消滅しつつある

奈良の中心市街地形成は、

近鉄奈良駅 ←→ 三条通り ←→ JR 奈良駅

というように 2 つの交通核を基点として面的な広がりを持ち、しかも両駅間の移動時間は人が抵抗なく回遊できる 15 分以内との距離的条件など恵まれた条件下にあったことからきわめて理想的な商業地形成がなされてきた。

しかし、ダイエー奈良店の撤退によってこの両極という構造が崩れ、通行量が東向商店街=100 として三条旧ダイエー前は 58.0 と 1/2 近くまで低下し、二極構造が崩れていることを示している。昭和 52 年=97.0、平成 10 年=93.0 の過去の実態は見るかげもない。

奈良市の中心市街地の発展条件としてこの JR 奈良駅周辺地域の店舗集積など回遊条件の整備が待たれる。

◆新たな店舗開発や街区整備など時代に適合する

まちづくりへの期待

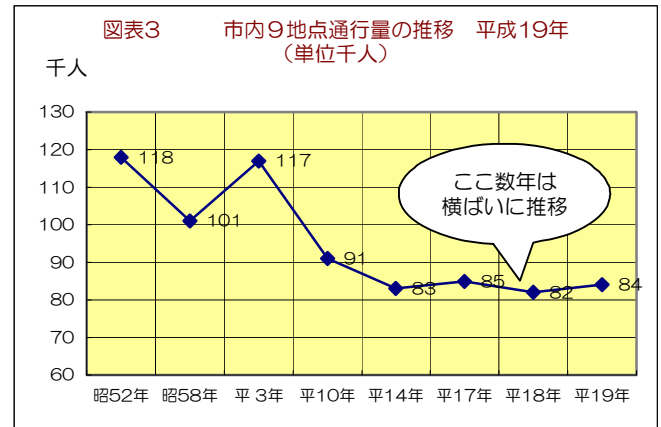
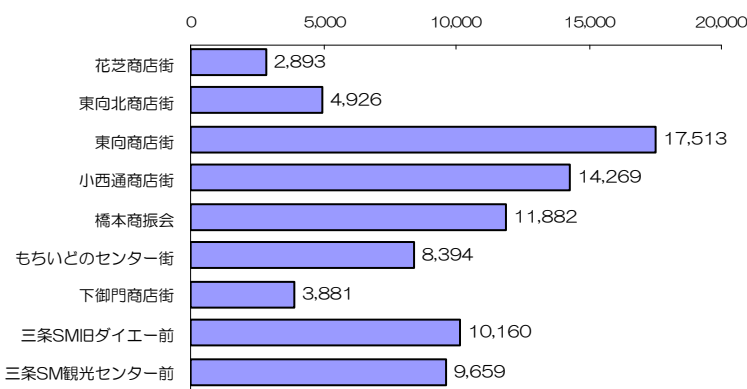
このように、奈良市の中心市街地の動向は全体として変化は少なく、横ばいに推移していることが調査から読み取られた。これはこれまで数年の奈良市中心市街地の商業環境をみれば当然のことといえ、顧客動向に変化を及ぼすような新たな商業開発や環境変化が全く見られなかったことを考えれば、今回の通行量の結果はむしろ現状維持に収まったことに安堵すべきといえる。

しかし、郊外への大型ショッピングセンターの建設ラッシュなどの今後の環境変化を考えれば、中心市街地としての新たな対応が是非とも必要で、今後においては、これらの活動に影響を及ぼすような地域の劇的な変化に期待をしたい。

これらの与件として、JR奈良駅の高架化に伴う駅前開発（ホテル等の立地）や三条通の拡幅計画さらには中心市街地活性化法に基づく新たなまちづくりなどの計画が進捗中であり、その推移に注目したい。

3. 調査データ

図表1 平成19年奈良市中心市街地通行量（地点別）



図表2 平成19年度奈良市中心市街地通行量（過去の調査と比較）

商店街名 (調査地点)	昭和52年		平成3年度		平成10年度		平成14年		平成17年		平成18年		平成19年	
	実数	指数	実数	指数	実数	指数	実数	指数	実数	指数	実数	指数	実数	指数
花芝商店街	3,351	100	2,795	83.4	2,622	78.2	3,174	94.7	2,802	83.6	-	-	2,893	86.3
東向北商店街	7,018	100	5,486	78.2	4,467	63.7	4,853	69.2	4,948	70.5	3,479	49.6	4,926	70.2
東向商店街	22,536	100	23,298	103.4	18,451	81.9	15,818	70.2	17,820	79.1	18,009	79.9	17,513	77.7
小西通商店街	20,990	100	18,233	86.9	12,256	58.4	14,171	67.5	13,698	65.3	14,363	68.4	14,269	68.0
橋本商親会 南都銀行前	14,671	100	18,633	127.0	13,247	90.3	8,683	59.2	12,196	83.1	12,533	85.4	11,882	81.0
もちいどの センター街	14,308	100	12,969	90.6	9,061	63.3	8,148	56.9	7,928	55.4	7,383	51.6	8,394	58.7
下御門商店街	3,043	100	3,246	106.7	2,645	86.9	1,995	65.6	3,556	116.9	3,420	112.3	3,881	127.5
三条ショッピング ダイエー前	21,856	100	18,125	82.9	17,158	78.5	16,172	74.0	12,089	55.3	9,618	44.0	10,160	46.5
三条ショッピング 観光センター前	10,951	100	13,778	125.8	11,324	103.4	10,392	94.9	9,956	90.9	9,751	89.0	9,659	88.2
市内計	118,724	100	116,563	98.2	91,231	76.8	83,406	70.3	84,993	71.6	78,556	66.2	83,577	70.4

事務局だより

毎月寒い日が続いています。来月のお水取りまで、まだ春が遠いようです。

事務局が出来て5ヶ月目に入りました。事務局としての体制も軌道に乗ってきたかと思いますが、まだまだ新米で

すので、悪戦苦闘しています。

今は、2月25日の奈良市中心市街地活性化フォーラムの準備に大忙しです。スタッフ一同成功させようと頑張っています。会場に制限はありますが、何とか満杯になってほしいと願っています。ご協力お願いします。(事務局長)